

#### 4 環境政策について

斉藤清明の質問内容	主な答弁内容
<p>(1) 札幌市では生ごみの分別収集実験をマンションで始めるなど、各都市で生ごみ対策が進められている。</p> <p>本市でも生ごみは可燃ごみの約4割であり、早急に具体策を講ずべきである。</p> <p>そこで、本市で実施している生ごみ堆肥化容器の配布、生ごみ処理機購入補助事業の現状について伺う。また、今後、清掃工場のCO<sub>2</sub>削減、施設延命のためにも家庭用生ごみ処理機のさらなる普及など早急に生ごみ対策をすべきと考えるがどうか伺う。</p> <p>(2) ふえ続ける家庭からのCO<sub>2</sub>排出量を抑制していくことなどを掲げて、環境省の「エコハウスモデル整備事業」により、「浜松市エコハウスモデル住宅」が建設されさまざまなエコ体験のできるエコハウスが誕生した。</p> <p>こうしたことを発展的に進めるためには、今後、エコハウスの普及や浜松版エコハウス街区の開発が必要と考えるがどうか伺う。</p> <p>一つの案として、遊休地売却を民間委託して進めようとしているが、売却益を活用して一部を補助するなどして進めることができなにかあわせて伺う。</p> <p>(3) リサイクルプラザ構想について、平成13年に基本計画が策定され、平成14年度から用地交渉が進められ、平成18年度には基本構想の見直しが行われたが、いまだ実現さ</p>	<p><b>【市長】</b></p> <p>生ごみ堆肥化容器、いわゆるコンポストを過去5年間に1万世帯に配布し、生ごみ処理機は1千8百世帯に補助金を交付してきた。引き続き、生ごみ処理機の購入補助やコンポストを配布していく。生ごみ処理機をより多くの市民の皆様に設置していただける方法について、検討していく。</p> <p><b>【市長】</b></p> <p>エコハウスの普及については、設計手法や省エネ設備を紹介するイベントなどを実施、今後、さらなる普及のため、推進協議会において、普及促進部会の設立や設計コンテストを開催していく。また、「エコハウス街区」の開発については、本年度策定する「地球温暖化対策実行計画」に盛り込んでいく。なお、提案の補助制度を含め、他の自治体の事例などについても調査していく。</p> <p><b>【市長】</b></p> <p>建設用地については、すでに土地開発公社により先行取得し、そのうちの約4割を市が買い戻しをしている。今後は、早急に残りの用地を取得し、順次整備を進めていく。</p>

れていない。

そこで、リサイクルを含めたさまざまな環境施策を展開するためにも、早期に建設すべきと考えるがどうか伺う。